



-妖の多い酒屋さん-
-眠り鬼編-

致死量の睡眠薬
入れたのに
起きられでもした
ひとたまりも無いだ
ろえが頭をよぎったが

ぐー……

気付いたら衣の
結び目に手が
かかっていた

魔が差した。



これは人と鬼が
一緒に世界に
生きている世界の話。

とある町酒場の前



ええっ！
前買った金額より
減ってるじゃないですか！



悪いとは思
うてんだがよお

もっと安くいい品
いれてくれる
仕入先が出来ちまって





だからもう卸して
やれねえんだ

今回のも
今までの付き合い分
俺が引き取るが次からは
金は払えねえ



まだ若いんだから
勉強して
出直してこい

うまかったら
また買わせて
もらうからな



酒屋さん良い人だから
あんまり恨めしい事
いえないしなあ...

何だかんだ
最後に買ってくれたし...

また一からかあ...
しばらくどうしよう...

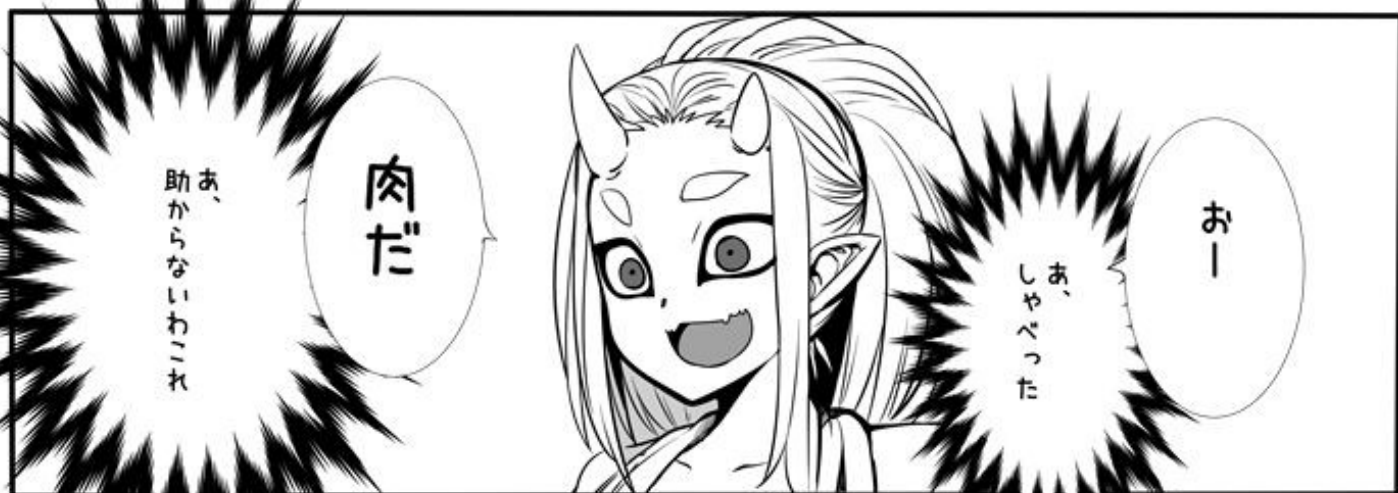


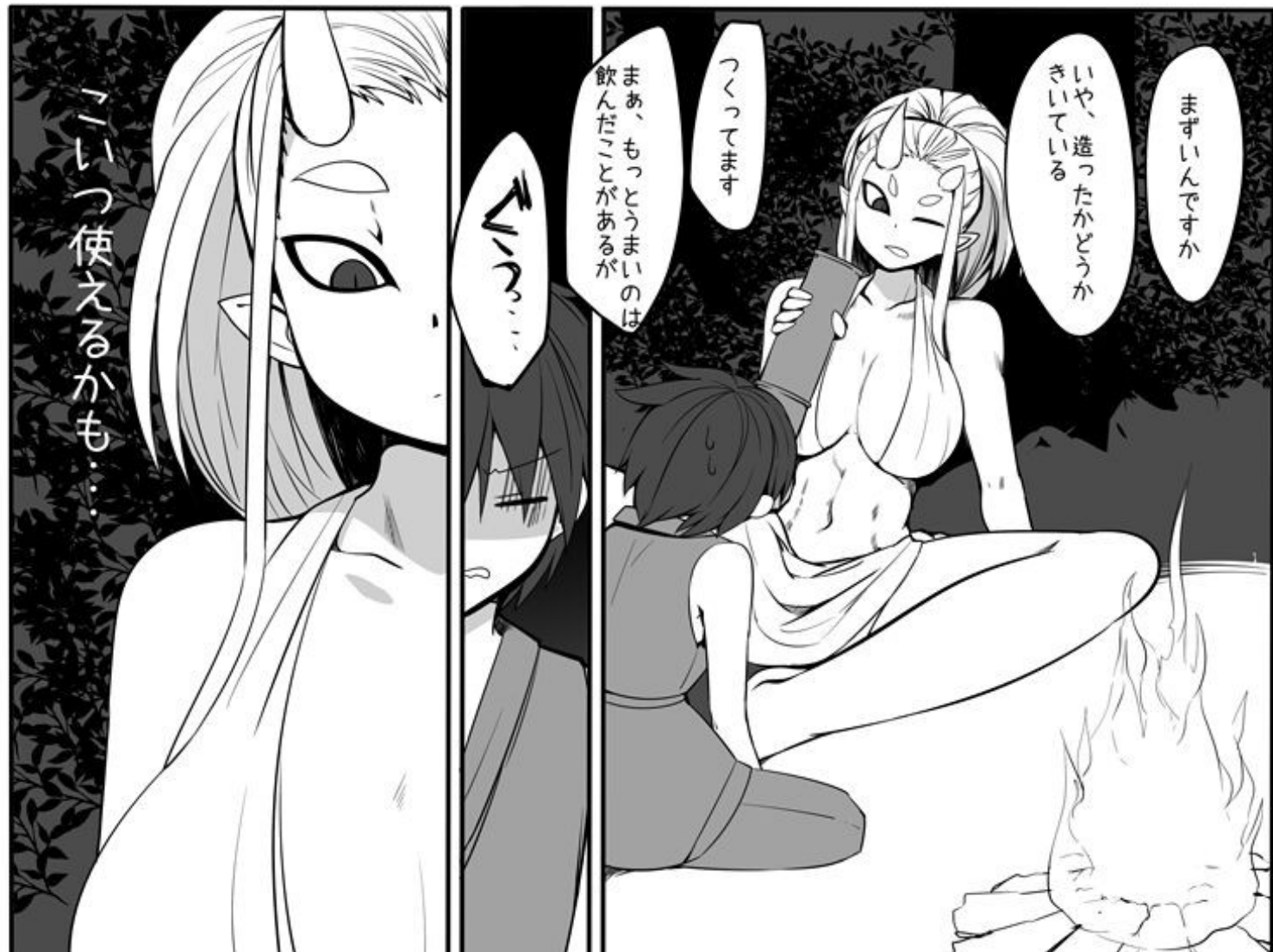
あーやばい
死んだかもこれ
山営めてたなー

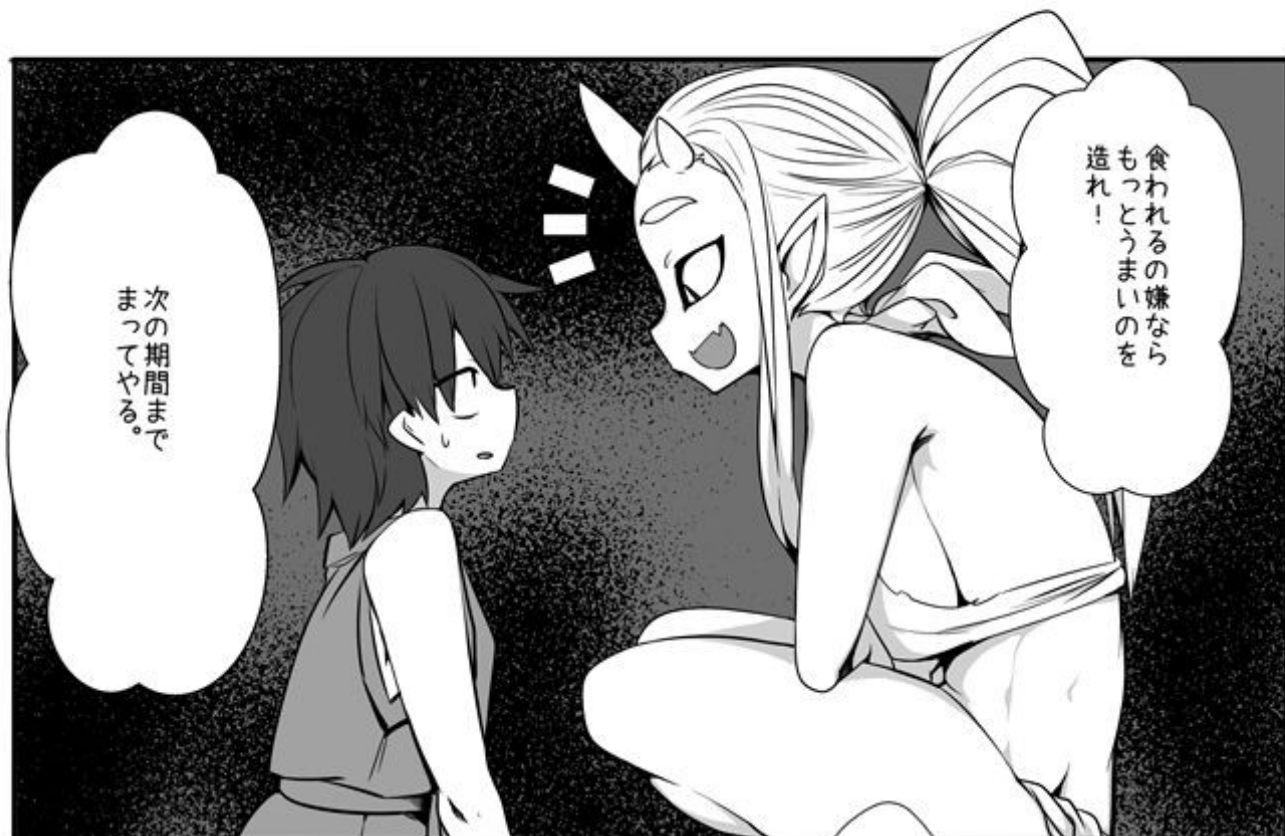
おっ

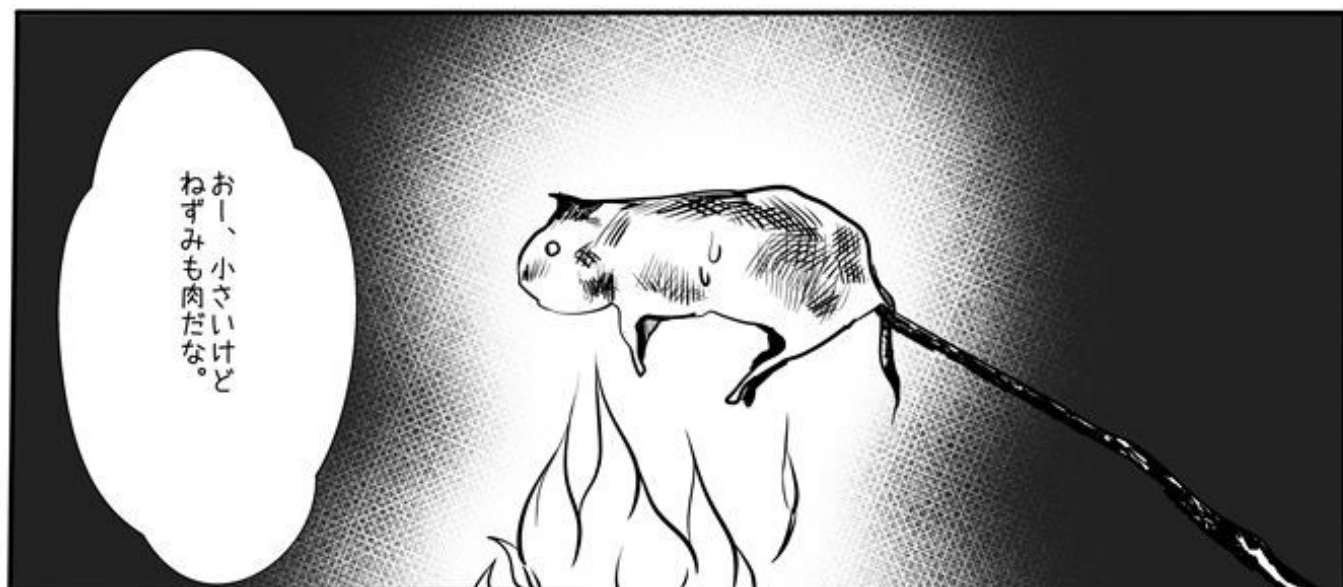
何でこうなったんだろ
何とか逃げられないかな
でも話通じそうにないしなー













ぐ……

致死量の睡眠薬
入れたのに
まだ大丈夫そう……

犬より大きい生き物
殺した事ないしなあ……

本当はここで
とどめさした方が
いいんだろうけど

暗くて動けないん
だったー……

ほっておきや
弱って死ぬだろう、
今のうちに逃げなきや……



このまま
暗がりの中を
歩いたところで

熊か別の妖怪に
襲われるのが
目に見えてるじゃないか

でも朝まで待ってたとして
鬼がけろっとした顔で
目を覚ましたらどうなる？

相手の要求をのんだところで
こっちの命の保障は
誰がしてくれるんだか…



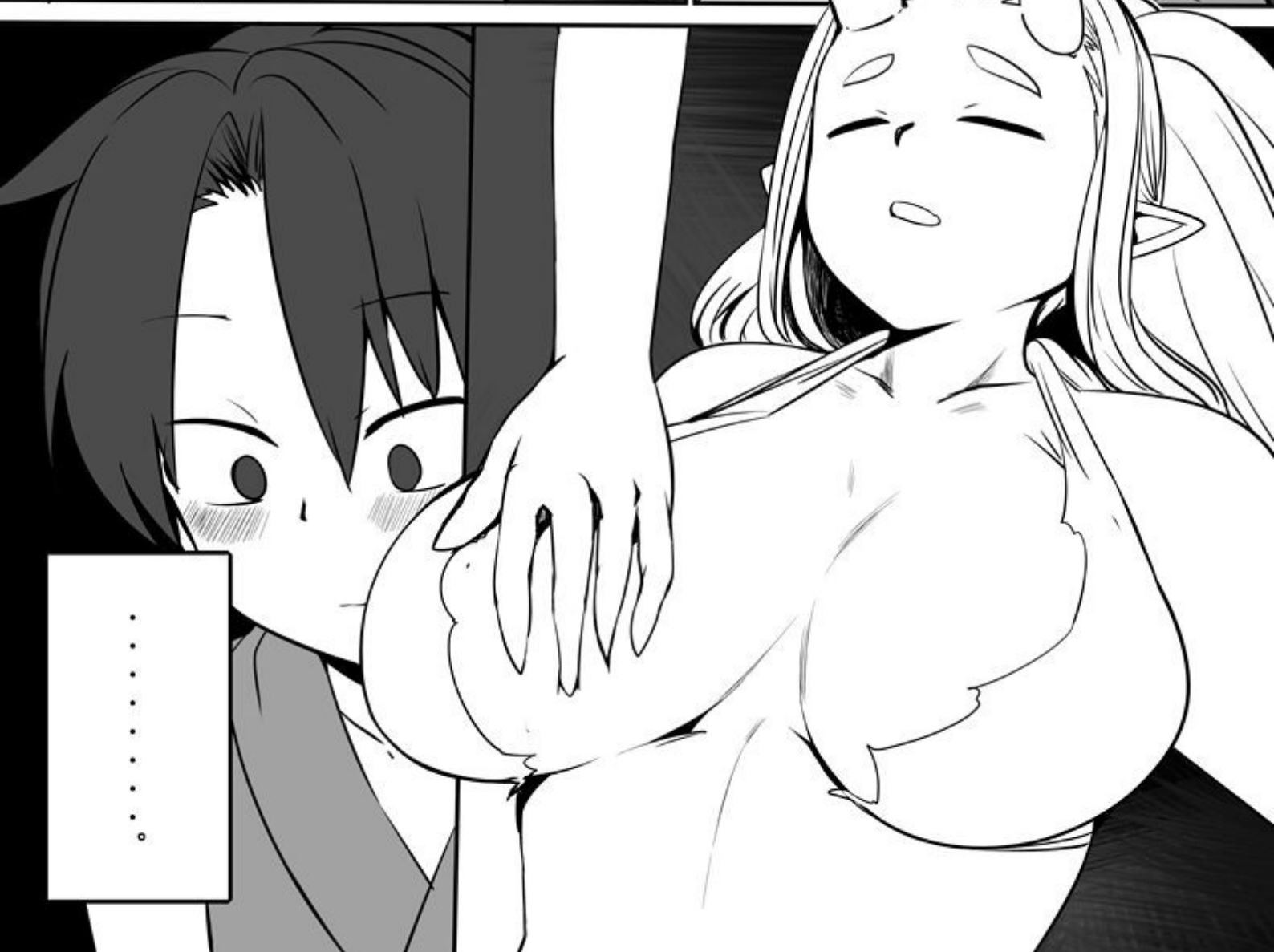


いかも結構
いい体つきをしてる...



目が合ったときは殺されるかと思っただけで寝てればただの女の子に見える...

...



...

魔が差した。

気付いたら衣の
結び目に手が
かかっていた





もし考えていたより
薬が効いてなくて
起きられでもしたら
ひとたまりも無いだろうと
考えが頭をよぎったが

それとは裏腹に
体がひとりで動いている
かのように
鬼の体を
貪り始めていた。



すごい体温が高い、
先を押し付けただけで
射精しそうになるほど
体が熱くなってきた…

ぷるるん。

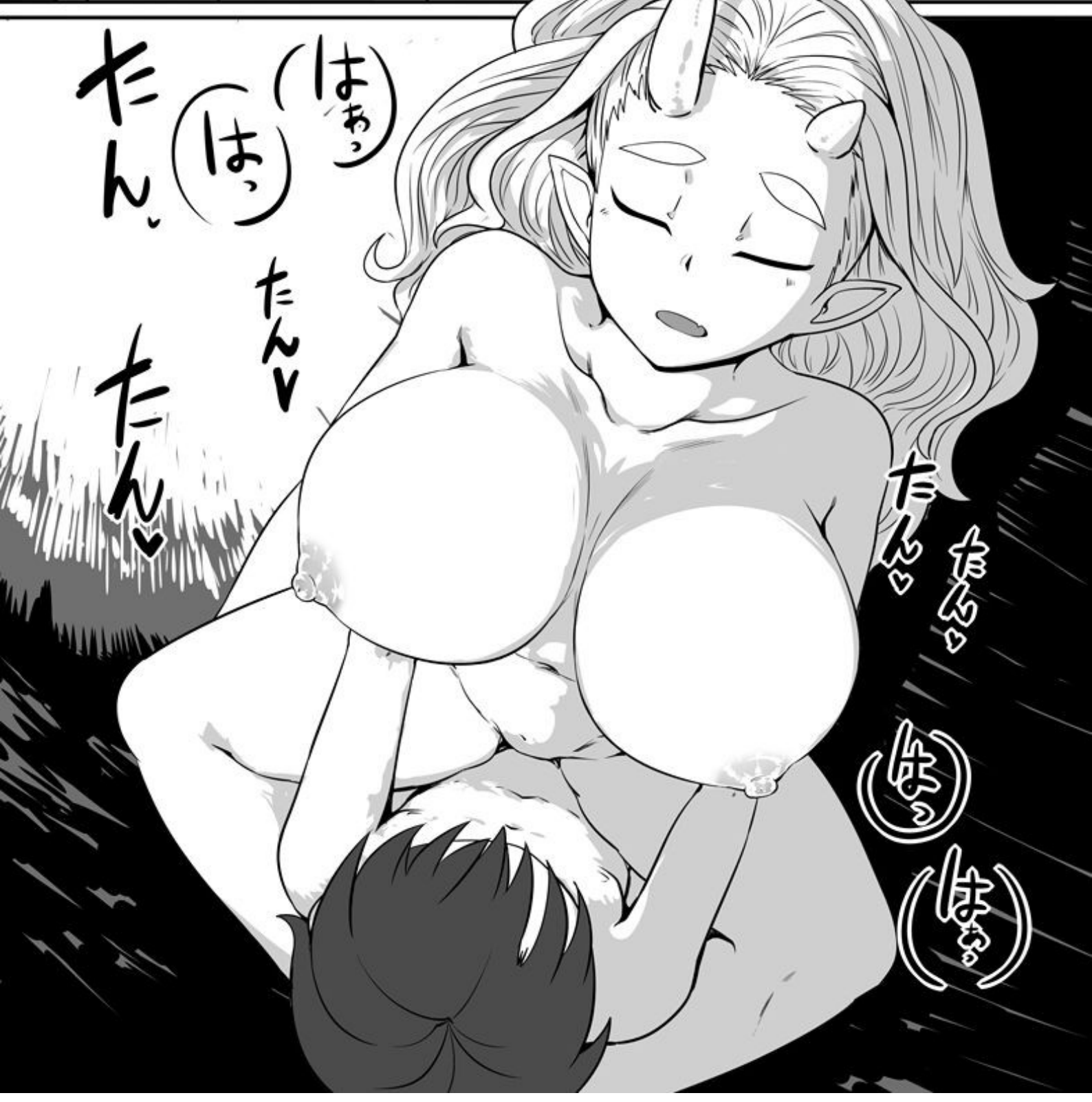






今起きられたら
いろんな意味で
死ぬな...

はえ
気持ちいい...



たん (は) (はあ)

たん

たん

たん
たん

(は)

(は)

もうそろそろ限界……
このまま臍内に……











おかげさまで
荷物も軽くなりましたよ

おし、
じゃあ酒蔵の酒も全部空にして
新しい酒造りやすくしてやるからな

…はい。



今回は
二ニまで。購入
ありがとうございます！
ござります！

お前さん名前は？

ミワっていいいます…
お姉さんは？
イズモ。



つつく。

—妖の多い酒屋さん—

サークル・金画輪

描いた人： 金画輪

使ったツール：SAI2・CLIP STUDIOPAINT EX

使った素材：CLIP STUDIOPAINT 素材

ツイッター：<https://twitter.com/kongarin8>